

WAM助成金 成果報告

認定NPO法人四つ葉のクローバー
理事長 杉山真智子



1) 認定NPO法人四つ葉のクローバーについて



四つ葉のクローバーは社会的養護の必要な若者たち(15才～22才)に住居の提供・生活支援・就労支援・アフターケア支援を行う団体です。



2013年4月	民間にて NPO法人を設立	
2013年	WAM助成金	580万円
2016年1月	認定NPO法人の資格取得	
2016年5月	滋賀県より自立援助ホーム認可	
2016年7月	居住支援サテライトハウス事業(豊郷町)	
2017年	WAM助成金	527万円
2018年	WAM助成金	534万円
2019年	WAM助成金	445万円

■ 現在会員数 ■

- ・スタッフ 5名(正職員) 2名(非常勤)
- ・理事11名 ・正会員数 50名
- ・サポート会員 110名
- ・ボランティア人数 50名

2) 事業の背景

親と安心な環境で暮らすことが困難な環境にある子どもは全国に約4万5千人
滋賀県では約450人

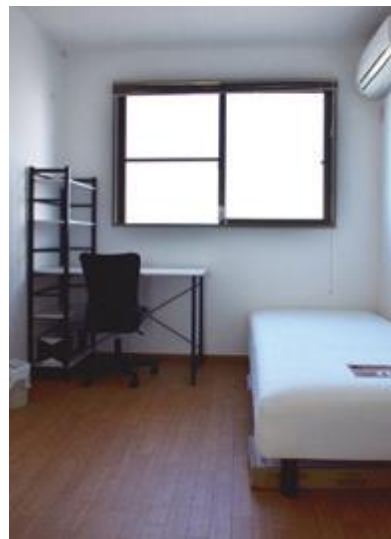


中古ビルを夢コートビルに改装



リビング
約20畳

個室 12部屋



※原則18歳で施設を退所したのち、親元に帰れない子ども達はそのまま自立を迫られる

自立援助ホームを活用し、
社会に巣立つ準備期間

3)実施した助成事業の概要

2017年度

四つ葉アフターケア事業

ポイント



- 柱立て 1) アフターケア事業の実施 **専門職の雇用**
生活支援・就労支援・セミナーの開催・居場所作り
- 2) クローバー・ドリーム・ライブの開催
職員と若者がともに企画し、音楽の力を借りて若者が自身を語る
- 3) 自立研究会の開催
職員の困りごとに着目し職員のエンパワメント・人材育成

四つ葉カフェ

2018年度

虐待児童・若者を地域とつなぐカフェ事業

ポイント



- 柱立て 1) 自立研究会の開催
- 2) 四つ葉カフェ事業 **専門職の雇用**
公的支援に繋がらず困窮している若者支援と地域のつながり支援
- 3) 職員スキルアップ（自立援助ホーム視察・心理士研修）
- 4) クローバー・ドリーム・ライブの開催
- 5) 真夜中会議の開催
- 6) 社会啓発活動（オレンジリボンたすきリレー参加、通信発行等）

真夜中会議の様子

4) 問題解決のためのネットワーク作り(主な連携先)

・滋賀県児童福祉入所施設協議会

(児童養護施設、障がい者福祉施設、児童相談所長 県青少年局
児童自立支援施設、児童心理治療施設、 県障がい福祉課)

・滋賀県子ども若者支援地域協議会

・守山市民交流センター

・要保護児童対策地域協議会

・更生保護女性会

・地域民生委員協議会

・全国自立援助ホーム協議会

・アフターケア事業全国 ネットワーク「えんじゅ」

・若者サポートセンター

・働き暮らしセンター

・しが生活支援者ネットワーク

・守山市役所、子ども家庭課

・中小企業家同友会

・滋賀県 縁(えにし) ; 滋賀県社会福祉協議会



皆のくらしを
あたたかくする
つながり

滋賀に暮らすひとりひとり、
だれもが「おめでとう」から「ありがとう」まで
大事にされる地域づくり

中小企業同友会との連携により地域における就労ネットワークの構築

- 1) 生活面での課題(負担)を減らす
- 2) 就労先では話しにくい悩みの受け取り
- 3) 必要に応じてスタッフから会社へ支援児の情報提供を行う
- 4) 企業からの支援児への困りごとの受け取り

協力企業 160社 2019.4現在



細やかなやりとりを支援児と企業と一緒に行うことで、
企業側も家庭など頼ることが出来ない支援児を支えやすくなり、就労の継続につながる。



ハローわくわく仕事体験 参加企業さま



中小企業家同友会会員さまと東京へ視察

5) 成果につながったポイント ①-1 多彩な応援団員の協力と対話

2018年12月 自立研究会の様子



2018年4月 職員勉強会の様子



屋上で地域住民とBBQ



5) 成果につながったポイント ①-2 多彩な応援団員の協力と対話

草津市アミカホール300席立ち見が出る

2019年1月ドリームライブの様子



2018年ドリームライブ 若者語り



5) 成果につながったポイント ② 仲間との協力と対話

7月の真夜中会議
「被災地の人たちに思いを届ける」



11月 真夜中会議
「結婚・家族って」



9月真夜中会議
「ドリームライブ2019のテーマを決めよう」

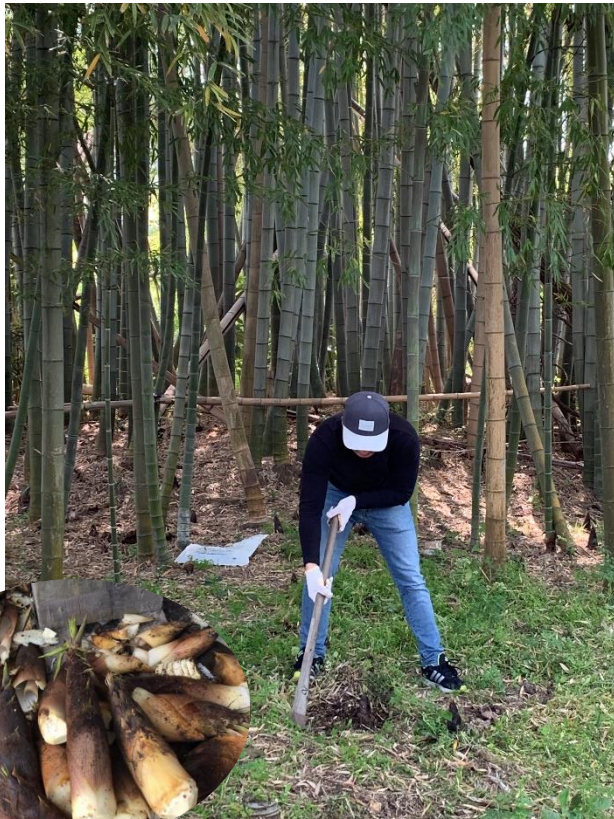


5) 成果につながったポイント ③周囲と育む自己肯定感

就労支援のための餃子屋竹の子



高島市で筍掘り
好意で竹林を提供



東近江市で無料で借りた畑
ニンニクの植え付けの様子



6) 今後の展開 2019年度 WAM助成金を受けて挑戦中

ステップハウス

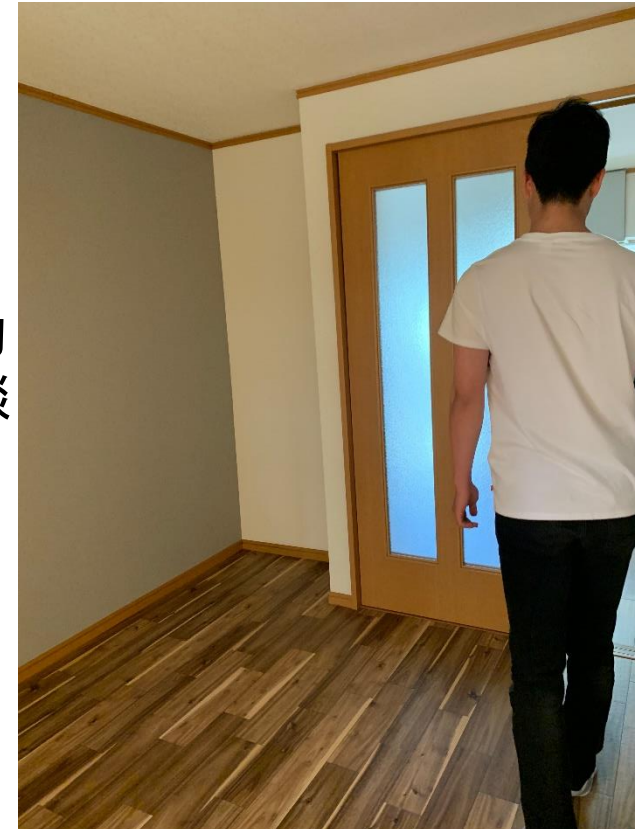
①目的・内容

- ・自立に向け円滑に移行させることが目的。地域に密着した不動産屋と連携し、社会的養護の現状の周知と物件確保などの協力体制を広げていく。またこれを積極的に活用することで若者の安定した自立や就労移行が期待できることをデータとしてまとめる。

- ・法人契約した賃貸での3～9カ月の短期的な一人暮らしの場を提供し、期間終了後に法人契約から個人契約に切り替え円滑な自立を援助する。

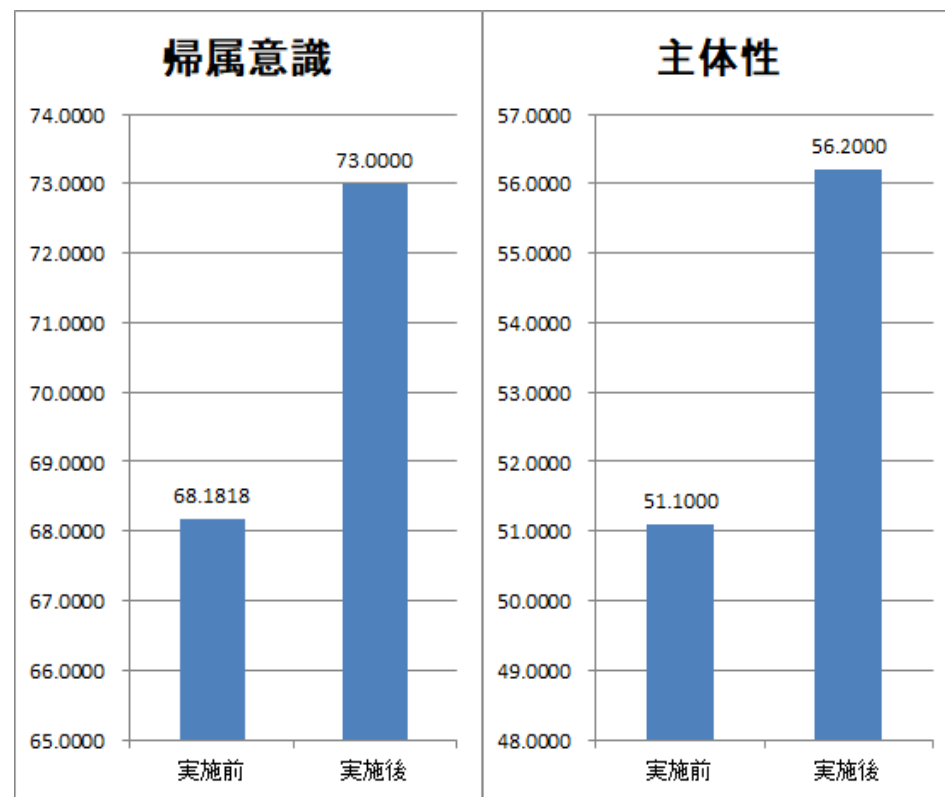
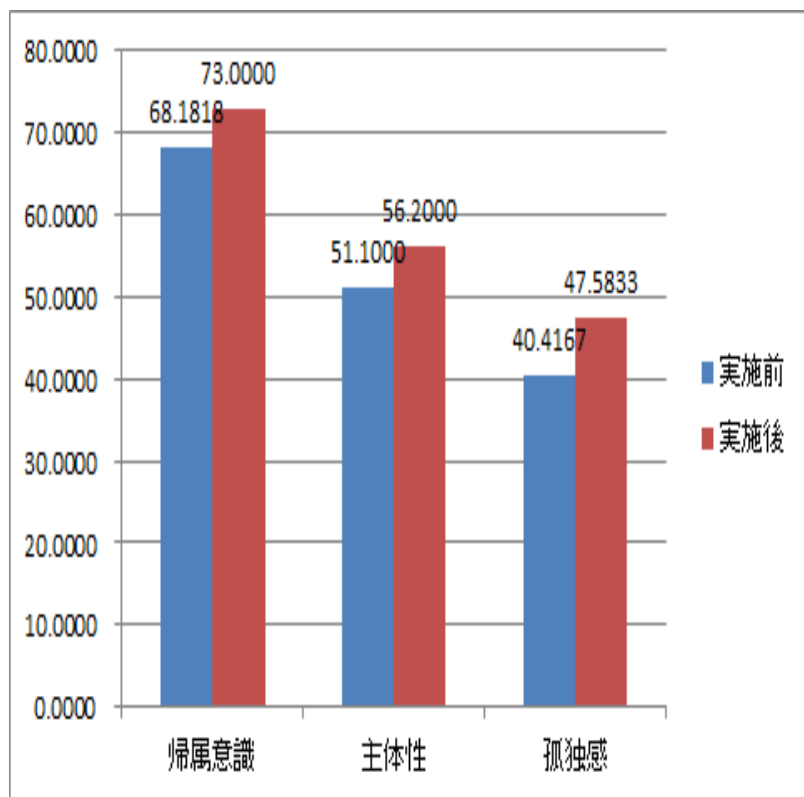
ホーム近くにて賃貸を契約、電気・水道・光熱費は若者の契約・負担とする。利用する若者については、定期的な訪問や面談を行う。また法人契約の期間が経過すると賃貸契約は若者個人の契約に切り替える為、引っ越し費用、また生活環境の変化などの負担が少なく、自立に向け円滑に移行させることができる。

②賃貸アパート3部屋契約。



補足) 見えてきた課題

さらなる環境の整備の必要性



四つ葉カフェ事業全体の成果の平均値の差

真夜中会議の成果の平均値の差

- ・ホームも職員も継続すること→ 財源、人的基盤の必要性
- ・虐待を受けた若者が語れるイベントを地域で作っていくこと→ 社会的コミュニティ、セーフティネットの形成と具体的アプローチの取り組み構築
 - ・若い世代への虐待周知

補足) メディアに取り上げてもらうことで高い信頼感

ニュース 630



若者が巣立つ日
2018年 3月

NHK放映
約10分

かんさい熱視線



“18歳後”をどう支えるか～密着・自立支援
の現場～ NHK放映 30分
2019年9月